

026-Te147z



*00595393 *

026.
Te147z
18

善本寫真集十九

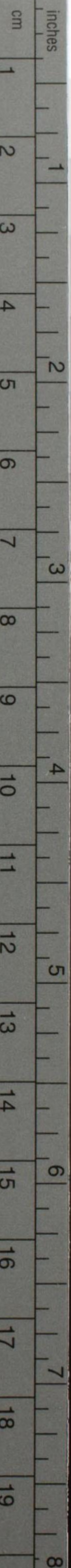
宋 版

天理圖書館

Kodak Gray Scale
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



© Kodak, 2007 TM: Kodak



Kodak Color Control Patches

Blue

Cyan

Green

Yellow

Red

Magenta

White

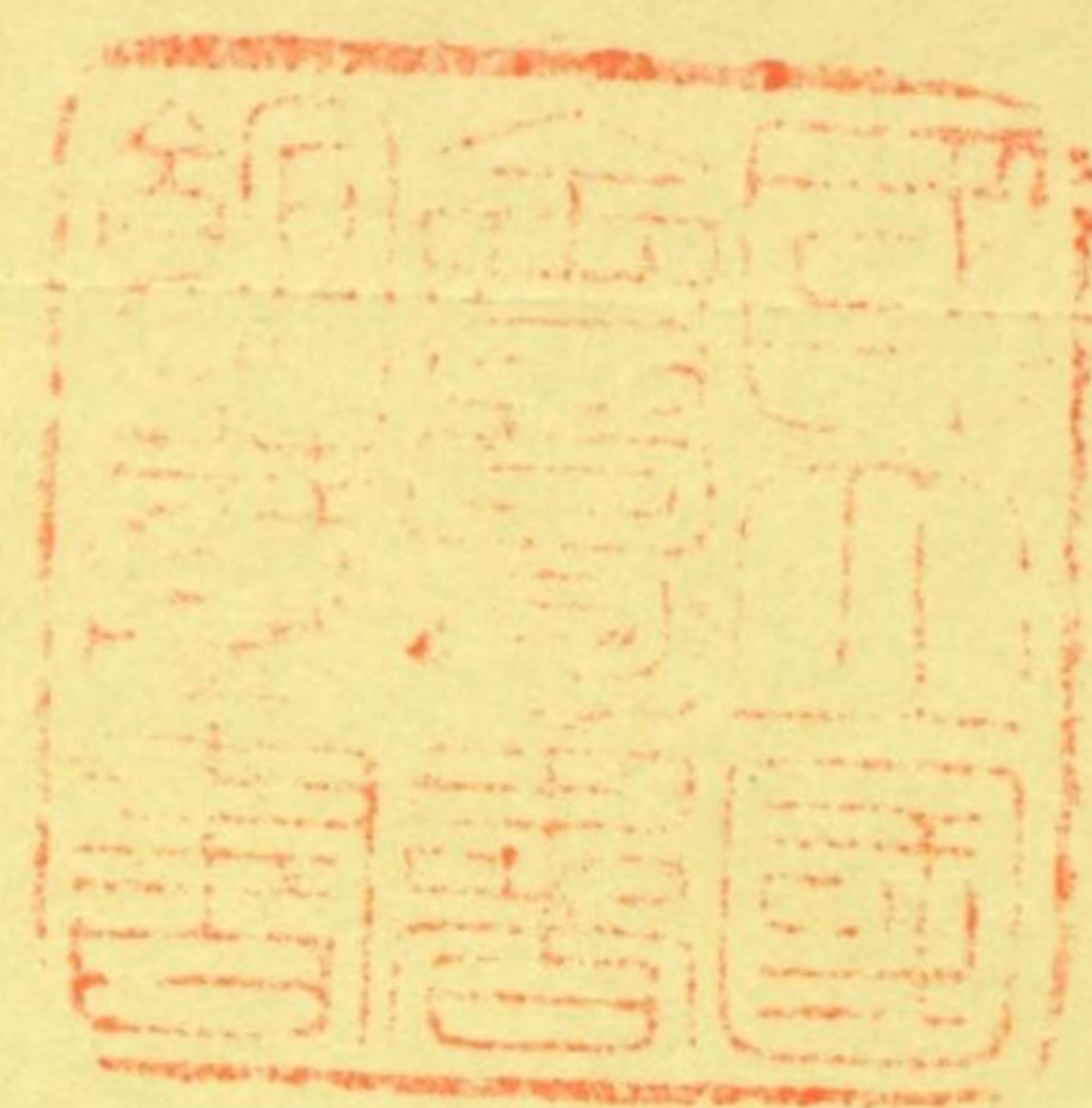
3/Color

Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak



026
Te147₃



595393

中國雕版の技は、唐時に源流し、五代を經、宋世に及んで極つた。政治の區分に従ひ、宋版を、更に南北兩宋に分けてもよぶ。その版板は整版の故に後世に傳存し、都度に再摺されることあり、これをも併せて宋版とする。

宋時を以て、従前鈔寫の世から版本時代に入つたとみるべく、書形は、卷子本より胡蝶・折本等の帖冊を通行とするに到るなど、この國書物史上まさに劃期的で、以降、元・明・清に續く版刻本に範となつた。いやしくも宋槧にかゝるものは、片紙殘葉といふとも秘藏賞珍されてきたのである。

館藏の中國古版、近時稍々數あり、うちより選び、宋・元・明と別つて續輯せんことを企て、こゝにまづ宋版を以てその始めに充てた。

目次

- | | |
|----------------|------------|
| 一 毛詩要義 | 二五 |
| 二 後漢書 | 坡先生詩 |
| 三 通典 | 一六 豫章黃先生文集 |
| 四 聖宋千家名賢表啓翰墨大全 | 金版 |
| 五 白氏六帖事類集 | 七 尙書注疏 |
| 六 白氏六帖事類集 | 一八 阿毗達磨發智論 |
| 七 新編醉翁談錄 | |

八 搜神祕覽

九 一切如來心秘密全身舍利寶篋印陀羅尼經

一〇 明州阿育王山如來舍利寶塔傳并護塔靈鰻菩薩傳

二 衆經目錄

三 經典釋文莊子音義

三 劉夢得文集

四 歐陽文忠公集

一 毛詩要義

(宋) 魏了翁撰。毛詩譜序。二十卷、三十二冊。袋綴、縱二十八櫃、橫十七・五櫃。每半葉有界九行十八字。白口、左右雙邊、縱二十櫃、橫十四櫃。柱刻、上部に字數、下方に刻工名。欄上に注文がある。宋諱の闕畫は敦字(南宋光宗)に至るが、まゝ闕かぬものもある。刻工名、劉子文・范子仁・范伯才・仁甫・葉友等。印記、棟亭曹氏藏書・長白敷槎氏董齋昌齡圖書印・桐鄉沈炳垣手讀書記等。魏了翁、南宋理宗嘉熙元年(一二三七)、謫せられて靖州にあつた際、九經注疏の繁を刪つて、各要義百六十三卷を撰んだ。内、宋刻本としては、周易・儀禮・禮記と、そしてこの毛詩要義が知られてゐる。

本書は、了翁の子魏克愚が淳祐十二年(一二五二)、徽州に知たりし時、始めて上梓した郡齋刊本で、僚本儀禮要義も、その版式甚だこれに類似してゐる。刻後二十四年にあたる端宗景炎元年、即ち元世祖至元十三年(一二七六)、この版木を藏めてゐた紫陽書院は兵火に罹つてゐる。かつて同治四年(一八六五)、上海に本書を経眼した莫友芝は「海内更無第二本、遂卓爲宜稼堂數十宋槧之冠」と手跋してゐるが、現になほ天下の孤本である。印記にみえる曹氏が、清末小説紅樓夢の主人公に擬せられたその人であるのも興味が深い。



毛詩要義卷第五 周南關雎篇章

一 如名之曰鳴鴉先作後名無定準

正義曰關雎者詩篇之名既以關雎爲首遂以關雎爲一卷之目金滕云公乃爲詩以貽王名之曰鳴鴉然則篇名皆作者所自名既言爲詩乃云名之則先作詩後爲名也名篇之例義無定準多不過五少纔取一或偏舉兩字或全取一句偏舉則或上或下全取則或盡或餘亦有捨其篇首撮章中之一言或復都遺見文假外



二後漢書

(劉宋) 范曄撰。(唐) 章懷太子李賢注。殘八十五卷、二十三冊。袋綴、縱二十五・五糵、橫十六糵。每半葉有界十行十八字、注雙行二十三字。細黑口、雙邊、縱十九・五糵、橫十二・五糵。柱刻、上部にまゝ字數を記す。耳格あり。宋諱の闕畫は敦字(南宋光宗)に至る。

經籍訪古志に「求古樓所藏宋槧亦即同此本、但惜殘缺不完 現存八十七卷、缺本紀六至十七、二十二至二十七、三十七至四十一、五 七、八、補志一二、傳十四十七至六十四、七十三至七十七、凡三十三卷」とあり、存闕の一致よりして、館本はかつて求古樓狩谷掖齋の藏儲だつたことが知られる。訪古志に従へば、本書は米澤上杉氏本に同版といふ。因に米澤本宋槧後漢書は「建安劉元起刊于家塾之敬室」の木記あり、慶元四年(一一九八)の刊刻にかゝるものである。本書の志卷三至三十は室町末期の補寫で、その列傳八末に「龜峯々下人倉光賢子良」の識語あり、この者の手になつたものであらう。

光武帝紀第一上 范曄 後漢書一上

唐章懷太子 賢 註

世祖光武皇帝諱秀字文叔 禮祖有功而宗有志 光武中葉興故廟稱

之字曰茂伯仲叔季兄弟之次長兄伯升次仲故字文叔焉

南陽蔡陽人 南陽郡今鄧州縣也蔡陽縣今南陽縣西南

世之孫也出自景帝生長沙定王發 長沙郡今潭州縣也。劉

放曰按文言出自景帝生長沙定王發 發生春陵節侯買

春陵鄉名本屬零陵冷道縣在今永州唐興縣北元帝時徙

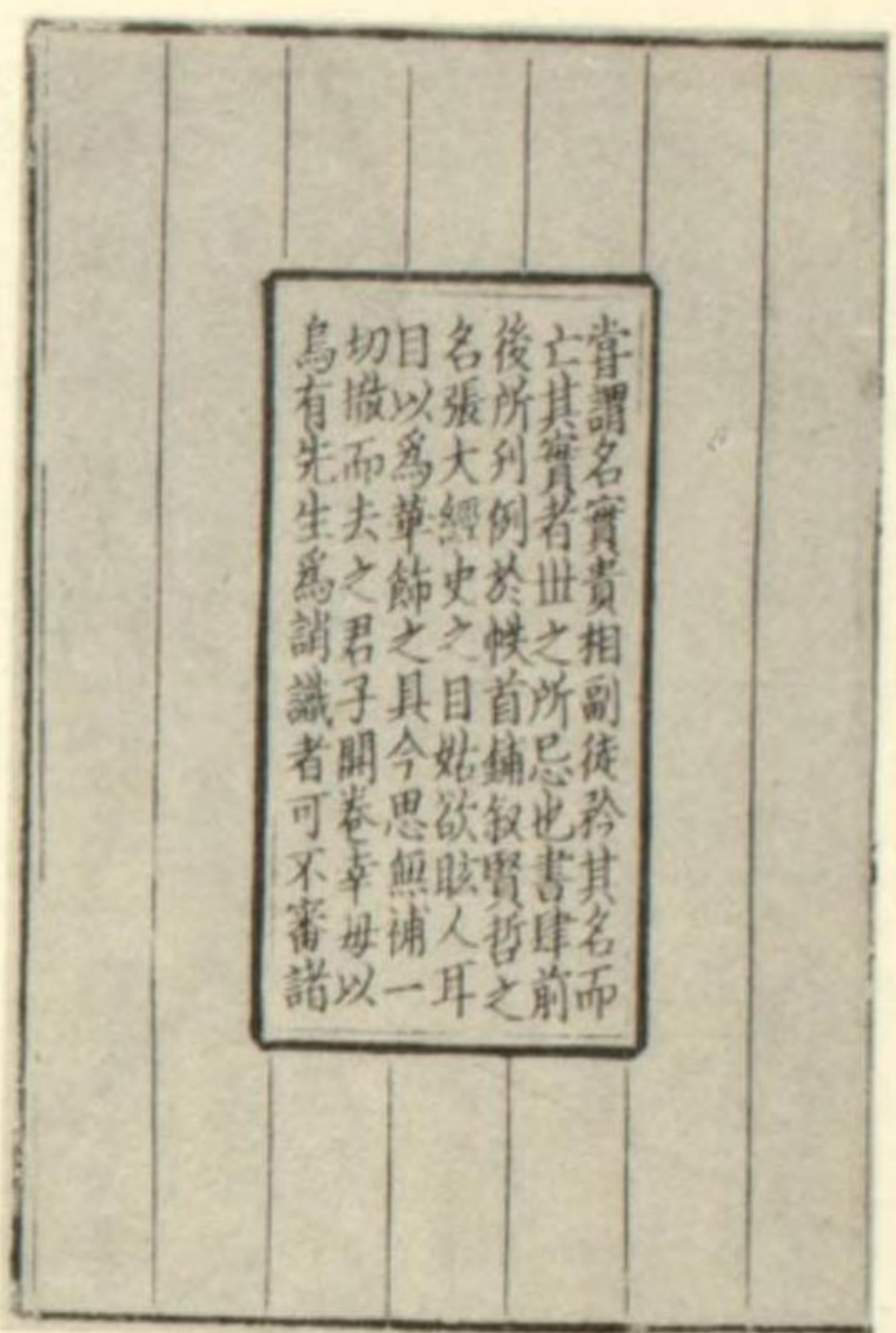
南陽仍號春陵故城今在隨州棗陽縣東事具宗室四王傳

買生鬱林太守外 鬱林郡今柳州縣前書曰郡守

生鍾鹿都尉回 鹿都郡今邢州縣也前書曰都尉本郡

尉秦官也掌佐守典武職秩比二千石

四 聖宋千家名賢表啓翰墨大全



慶元庚申孟冬之月吳奐然景仲序、翰墨大全門類、
綱目。殘二十六卷、三冊。袋綴、縱二十五・五糧、
橫十六・五糧。每半葉有界十四行二十三字（大字
二行分）。白口（或は線黑口）、左右雙邊、縱十
九・五糧、橫十二・五糧。柱刻、上部にまゝ字數
を記す。耳格あり。宋諱の闕畫は敦字（南宋光宗）
に至る。

印記、惟肖・溪迷堂・不忍文庫・阿波國文庫。

本書は、門類を賀表・賀賤・謝表・陳表・賀啓・謝啓・上啓・回啓・類姓・州郡
事迹の十に分ち、文章制作に必要な文言を古典等より抄出したもので、特に意を用
ひて表啓・職制に最も詳しい。恐らく科擧受験の用などに供した、建安坊刻俗書の
一であらう。序文の慶元庚申は南宋寧宗六年（一一二〇）にあたる。墨雌方印「惟
肖」は、得巖（延文五年）、南禪寺に住持した室町時代初期の禪僧である。
カットは序末に記された刊語。

賀表

聖宋千家名賢表啓翰墨大全卷之六

賀表

元旦 月旦附

事偶

文祖

書舜典月正元
日舜格于

神宗

書大禹謨正月朔
旦受命于

設葦

晉禮志歲旦常一一苾桃梗磔
雞於宮及百寺之門以攘惡氣

獻椒

晉劉臻妻元
日一一花頌

曰美此靈莖爰采爰獻
聖容映之永壽於萬

椒頌

同栢酒

周庾信正旦蒙
趙王賚酒詩一

一隨銘至父
正旦辟惡酒

樺燭

盧延遜新歲朝賀詩元
日燕脂色朝天一一香

習射

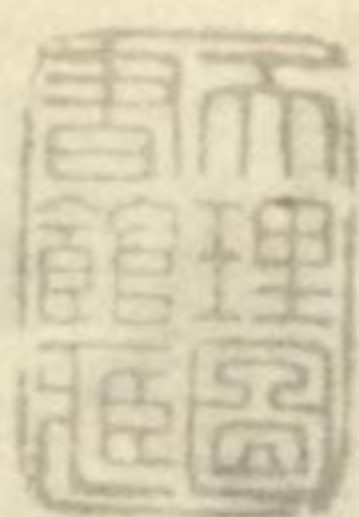
記王
制者

老皆朝于庠元日
一上功習鄉上齒

析穀

月令孟春之月天子乃
以元日一一于上帝

布憲



船橋

金澤文庫

白氏六帖事類集卷第二十二

八月二十八日附

寶鈴文庫

石版圖

招戶三

本土三

遷徙四

移骨五

流亡六

征役七

役使不均

賦稅九

重斂十

關市之征十一

九賦十二

山澤租稅十三

田稅十四

稅舟車十六

輕賦稅十七

復除十八

輸稅十九

均輸二十

平糶二十一

貢獻二十三

關貢二十三

詐貢賦二十四

九貢二十五

變夷貢賦二十六

出財助國二十七

石版圖第一周禮司民掌登萬民之數自生齒已上皆書於版辨其國

中都鄙郊野異其男女歲登下其死生登上也及三年大比以萬人之數詔

司寇司寇及孟冬祀司人之日獻其數於天子拜而受之登于天府

周官生齒之徒生齒者男八月女七月而生齒而人之齒生而備體也漢法隱戶之罰以代抵欺之罪聽閭里以版圖

大宰以官府之八政以聽閭里以版圖為版官政掌中官府大舍之

比要小司徒領兵法比於六鄉之衆官分

下民數及財物今八月案比是也比要其

羣臣之版夏官士掌羣臣之版

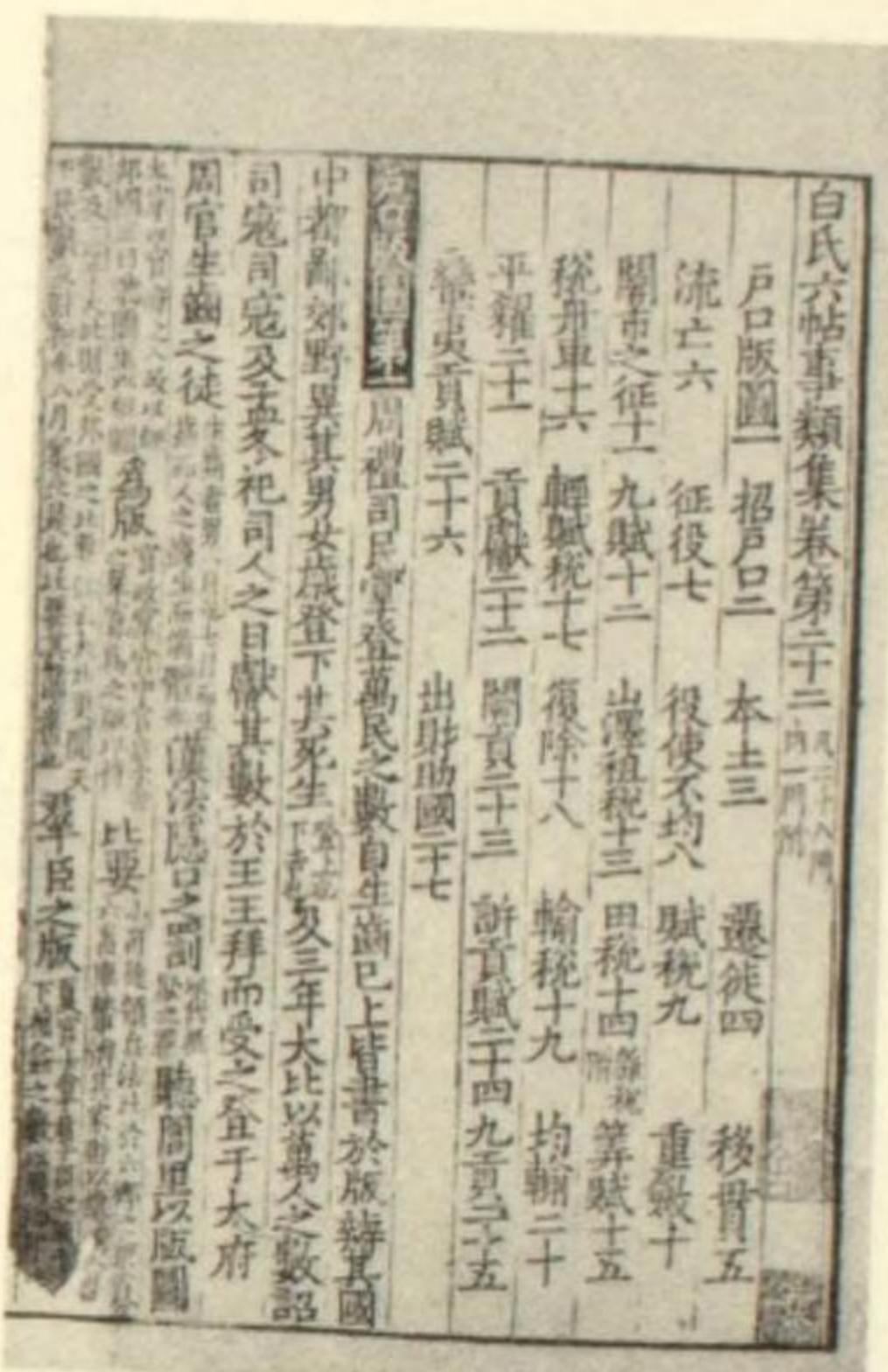
比要比要其

比要比要其

比要比要其

比要比要其

比要比要其



五 白氏六帖事類集

(唐) 白居易撰。殘六卷、一册。袋綴、縱二十九・五糵、橫二十糵。共五十八丁。每半葉有界十三行二十五至二十九字、注雙行三十四五字。白口、左右雙邊、縱二十二糵、橫十五糵。柱刻、帖十(帖十一)、字數、刻工名。宋諱の闕畫は貞字(北宋仁宗)に至る。刻工名、余全・文立・陳通・魏正等。

印記、金澤文庫(第一號墨印)・子子孫孫其永寶用・船橋藏書。

箱書 宋板白氏六帖事類集零本六卷一册(左下) 崇蘭館藏。刻工名より按じ、南宋紹興刊本と審定せられる。館本、いま卷第二十二至二十七

を存するのみであるが、他にこれと同版あるを聞かない。カットは次に掲出する紹興刊本の卷第二十二。字配・行郭等すべて本版に共通するが、匡郭等の大小を異にし、覆刻関係にあるものでない。(重美)

七 新編醉翁談錄

(宋) 羅燁撰。二冊。袋綴、縱二十四・四櫃、橫十四・五櫃。每半葉有界十一行二十字。黒口、左右雙邊、縱十四櫃、横九・五櫃。印記、伊達伯觀瀾閣圖書印。

甲一癸集に至る十集、每集各二卷に分れ、計二十卷。廬陵は今の江西吉安。羅燁については明らかでない。本書はこれまで明世李詔の戒庵老人漫筆に引かれたことがあるのみで、他に所見しない。一九四一年、伊達家より複刊され、始めてその存在が知られたのであるが、更に一九五七年、この複製本により、中國文學參考資料小叢書中の一篇として上海新華社から翻刻された。

書中、風流の韻事や花街の逸聞等、士庶遊樂した宋京繁華の姿を傳へて甚だ風趣に富む。殊に、小説引子、小説開關と題して、白話小説の體を八類に分ち、又は當時小説の名目を百餘種にわたつて掲げた甲集卷第一舌耕叙引の一章は、その頃漸く興りつゝあつた俗文白話小説のこよなき資料となつてゐる。書中元時の人名もみへ、かたゞ行文の間に亡宋懷舊の筆致も感得せられ、或は宋末元初の刊か。(重文)

新編醉翁談錄卷之一

廬陵 羅燁 編

甲集

白話叙引

小説引子 漢史講義並可通用

靜坐閑窓對短檠 曾將往事廣搜尋

也題流水高山句 也賦陽春白雪吟

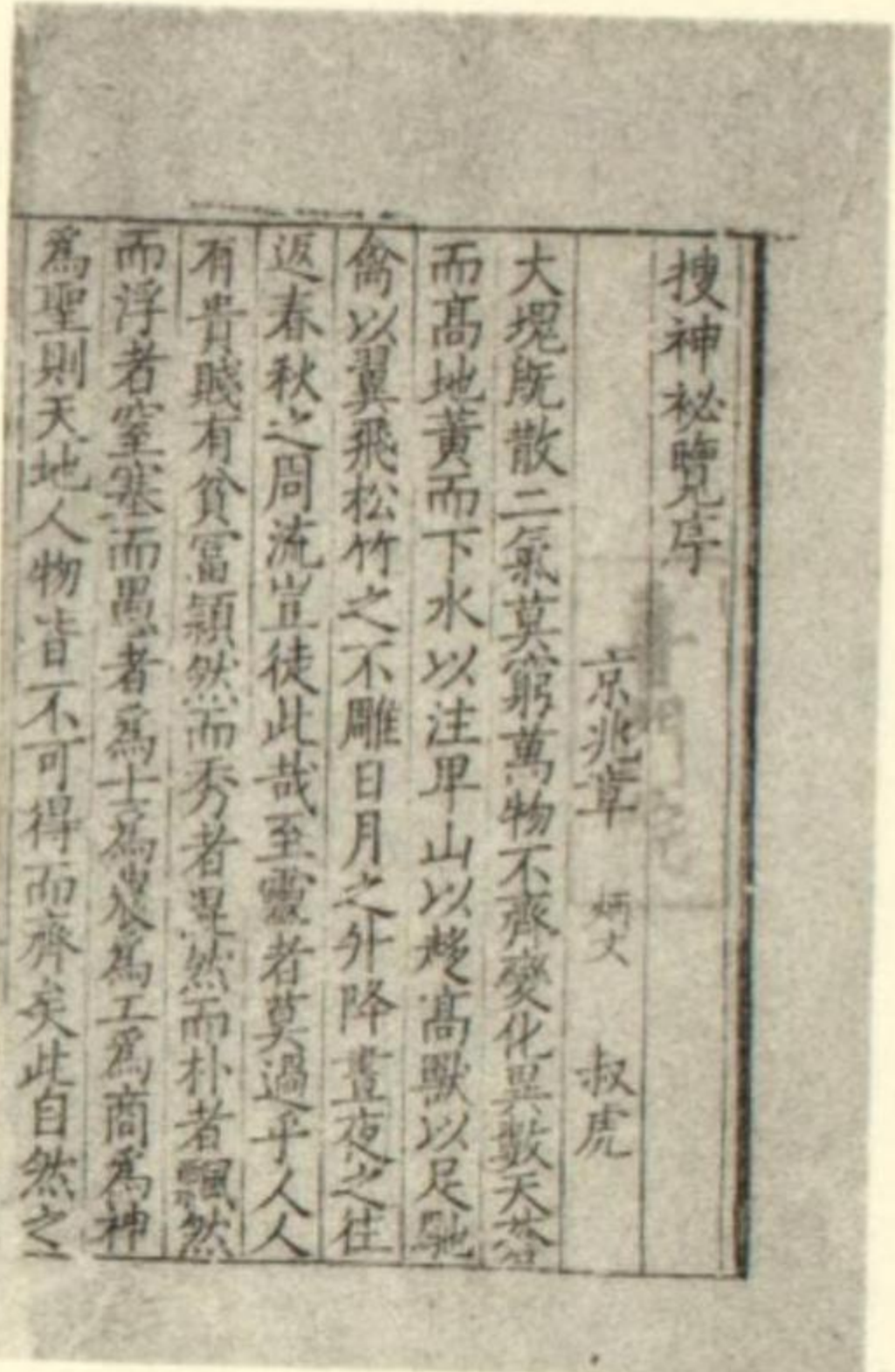
世上是非難入耳 人間名利不關心

編成風月三千卷 散與知音論古今

自古以來分人數等賢者清而秀愚者濁而蒙

八 搜神祕覽

(宋) 章炳文撰。政和癸巳自序。三卷、一冊。袋綴、縦二十五糎、横十七・五糎。共五十七丁。每半葉有界九行十八字、小雙行。白口、左右雙邊、縦十八・五糎、横十二・五糎。柱刻、上部に字數、下方に刻工名。宋諱の闕畫は敦字(南宋光宗)に至る。刻工名、浩・允・李・吳陞等。



印記、即宗院・普門院。

刊記、(目錄末) 臨安府 太廟前尹家書籍鋪刊行。

箱書、宋板搜神祕覽 (右下に) 全一冊 (左下に) 崇蘭館。

印記の即宗院・普門院は、ともに京都の禪刹東福寺の塔頭。もと同寺開山聖一國師請來本の一と傳へ、現在天下の孤本として古逸叢書に採録されてゐる。

本書は所謂臨安書棚本であるが、尹家の刻本、例へば本書と同じ刊記をもつ「續幽怪録」に比するに、その書體・版式等全く類同する。(重文)

搜神祕覽上
楊文公
吳待問予之里人也少孤貧賤因遊京師謁楊
文公憶文公喜而館之時公門下客如鄭戩
簡善鑑及子叔祖郇公皆未第與公之羣從
官待闕者不下二十人衆以吳之貧凡所供
饋皆文公所與多以賤事役焉文公知之伺吳
之出至賓館問之曰吳秀才何在衆對以出矣
公曰無乃爾輩役之乎此人於相法未嘗筆

搜神祕覽目錄
臨安府 太廟前尹家書籍鋪刊行

九 一切如來心秘密全身舍利寶篋印陀羅尼經

(唐) 釋不空譯。一卷。卷子本、一紙、縱七・二櫃、橫四十九・五櫃、四紙繼。卷初に圖像(縱五・八櫃、橫七・二櫃)あり。全二百七十一行、一行十字、天地單邊、五・八櫃。宋譯は眩字(北宋始祖)を闕く。

刊語、(卷初) 天下兵馬大元師吳越國王錢俶造此經八万四千卷捨入西関磚塔永充供養乙亥八月日記。

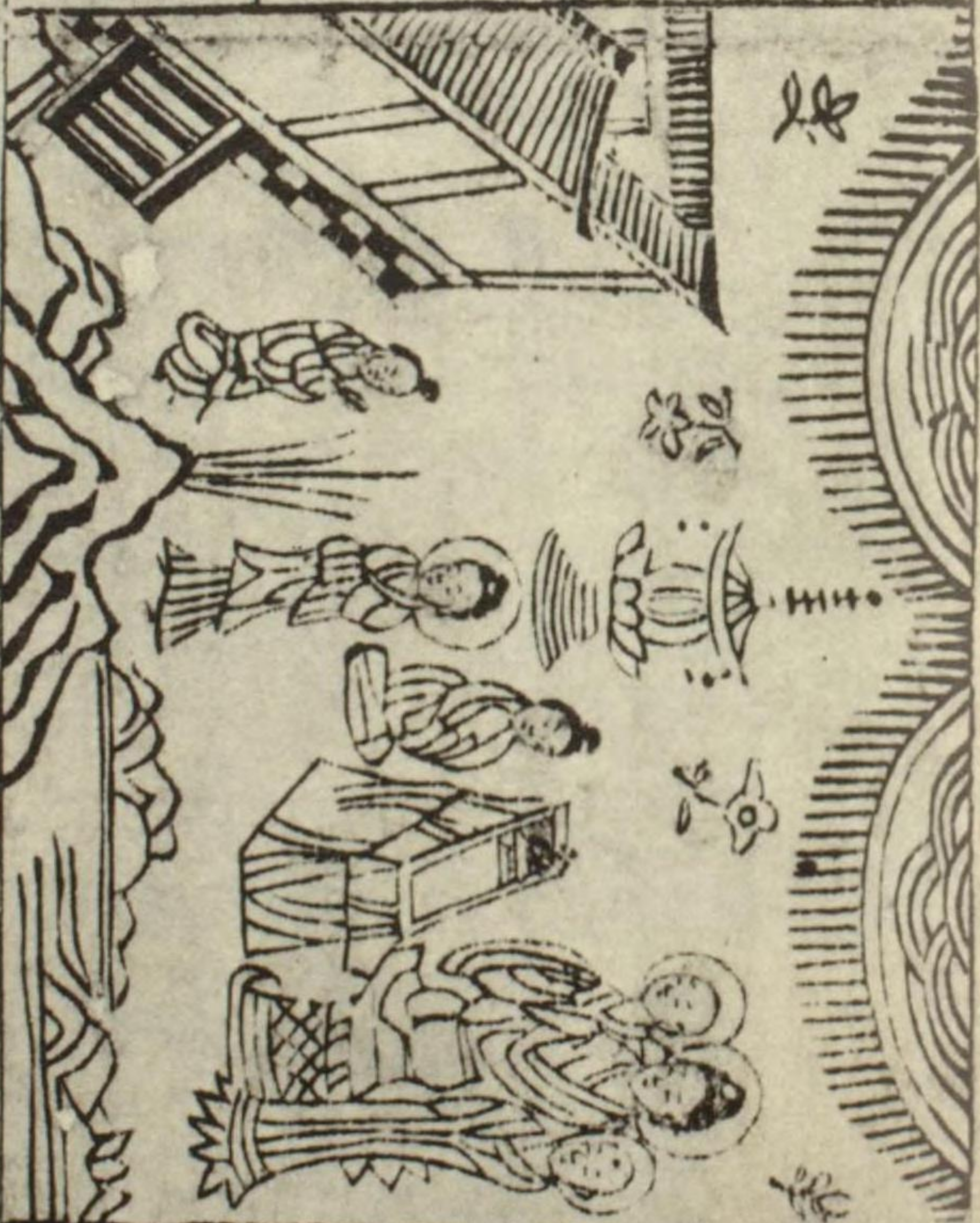
吳越國王錢俶は、貞明二年に舍利寶塔を錢塘に迎へて九層の浮圖を建立した武肅王の孫。刊語の乙亥は北宋開寶八年にあたり、現存の浙本としては最古のもので、錢氏の摺刻なるが故に五代刻本ともいひ、諸本、相互に版刻を異にするものがある。

錢氏、八萬四千基の小銅塔を造つて本經印本を收め、廣く諸寺に配つたのであるが、本卷は民國十三年(一九二四)、杭州西湖の雷峯塔が崩壞した際に出現した一本といふ。事情は「今歲甲子八月二十七日時未加天氣清朗有人見是處雲陔起轟然一聲塔遂下陷而傾圮矣士女聞之傾城往觀拾磚撮土謂可祛疫辟火其磚或有孔者孔不甚深藏經一卷外乃封以土名寶篋印經」云々とある識語によつて知られよう。カッタはその年の九月、王雲竹人畫くところの題圖「雷峯夕照」。



595393

天下兵馬大元師吳越國王錢俶造此經八万四千卷捨入西関磚塔永充供養乙亥八月日記



一切如來心秘密全身舍利寶篋印陀羅尼經

如是我聞時佛薄伽梵在摩伽陀國無垢園寶光明池中與大菩薩衆及大聲聞僧天龍藥叉健闍婆阿菴羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等無量百千衆俱前後圍遶今時衆中有一大婆羅門名無垢妙光多聞聰慧人所樂見常至十善於三寶所決之信

今時世尊說是陀羅尼時從朽塔處有七寶卒塔波自然涌出高廣嚴飾密嚴微妙放大光明時彼十方九十九百千俱那摩多如來皆來稱讚釋迦牟尼佛各作是言善哉善哉釋迦如來能說如是廣大佛法要安量如是法藏於閻浮提令諸衆生受樂安隱若有善男子善女人安此法要安量此陀羅尼於塔像中者我寺十方諸佛隨其方處極常隨逐於一切時以神通力及摺影加持護念今時世尊說此大全身舍利寶篋印陀羅尼廣作佛事已然後往彼婆羅門家受諸供養令無數天人獲大福利已却還所住念時大衆比丘比丘尼優婆塞優婆夷天龍夜叉樓閣婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等皆大歡喜信受奉行寶篋印陀羅尼經

10 明州阿育王山如來舍利寶塔傳并

護塔靈鰻菩薩傳

(宋) 贊寧撰。崇寧二年佛國禪師惟白序。卷子本、一紙、縱二十九・五糵、橫三十八糵。每半葉有界八行十二字。白口、左右雙邊、縱二十四糵、橫十八・五糵。柱刻、塔(舍利寶塔傳)、鰻(靈鰻傳)。宋諱は玄・敬・殷・貞・微(北宋仁宗)等を闕く。

印記、高山寺・讀杜草堂等。

佛國禪師の序文によれば、本書は、さきに北宋開寶五年(太祖九七二)に開版されたものを、更に崇寧二年(北宋徽宗一一〇三)に重版したものである。もと冊子本を、卷子本に改めてあるが、卷初見返に「以元久寫本一校畢、天保九年戊二月奉修補了 沙門慧友護又四」とあつて、「明惠上人遺法弟子」「慧友金剛」の朱印を捺す。毎紙繼目にもこの二朱印を鈐し、所々缺損の所を朱書補筆してあるが、前述の改裝をも含め、この者の手によるものと考へられる。

舍利寶塔傳は阿育王寺八萬四千塔の奇瑞譚。靈鰻傳は、阿育王寺東一里所在の四明聖井に棲んで、その寶塔を衛護する、身長一尺五寸の靈鰻の應現說話を記したものである。

明州阿育王山如來舍利寶塔

靈鰻傳并序

寶塔靈鰻二傳皆

因朝開寶中僧統贊寧之所述

或螺_之核_為靈鰻定形耶又應

以此身得度者即現此身而為

說法令觀靈鰻也護寶塔利群

生若兜率蜂王警諸天而談跋

致靈山龍女破五障而趣菩提

交光於瑩宿海中牙映於帝網

珠内是知菩薩不必手擎如意

身挂花鬘然後始謂之但隨所

應現護寶塔耳贊寧輒搜既往

顯神化之無方安識將來在

聖朝之獨久後之徵驗引而伸

之時

炎宋開寶五年歲在寶沉周朔旦

此板二十三係

堂頭交割貴得文

無倫誤矣

有

六流量、外

周馬

編

二 衆經目錄

(隋) 釋彥琮等仁壽年奉勅撰。序。五卷、五帖。折本、縱三十種、橫十一・五種。一紙三十行、一折六行十七字。天地單邊、二十五種。柱刻、席、書名、卷數、板數及び刻工名。刻工名、徐珍・徐見・徐是・徐華・趙昌等。印記、唐招提寺。

大興善寺翻經學士釋彥琮を主班とする同寺翻經沙門等奉勅撰一切經のその目録で、別に仁壽内典録、隋五卷録、仁壽録、彥琮録とも稱せられる。本録に所載の經目は、都合二千一百九部五千五十八卷とあるが、實數は二千一百十三部五千七十二卷。

そもく南宋藏經に、法寶資福寺・圓覺禪院・磧砂延聖院の三版あり、前二者は湖州思溪版に屬する。然して圓覺・磧砂の二藏は私版、法寶資福寺藏經を以て欽定官版とする。

掲出本は思溪法寶資福寺刊本。奈良唐招提寺は宋本一切經を藏するを以て著名するが、本書は唐招提寺舊藏にかゝる。(重美)

衆經目錄卷第一 井序

隋仁壽年翻經沙門及學士等撰

佛法東行年代已遠梵經西至流布漸多舊來正典並由翻出近遭亂世頗失原起前寫後譯質文不同一經數本增減亦異致使凡入得容妄造或私採要事更立別名或輒構餘辭仍取真号或論作經稱跡為論目大小交雜是非共混流濫不歸因循未定將恐陵遲聖說動壞信心義關紹隆理乖付囑

皇帝深崇三寶洞明五乘降勅所司請興善寺大德與翻經沙門及學士等披檢法藏詳定經録隨類區辨摠為五分單本第一

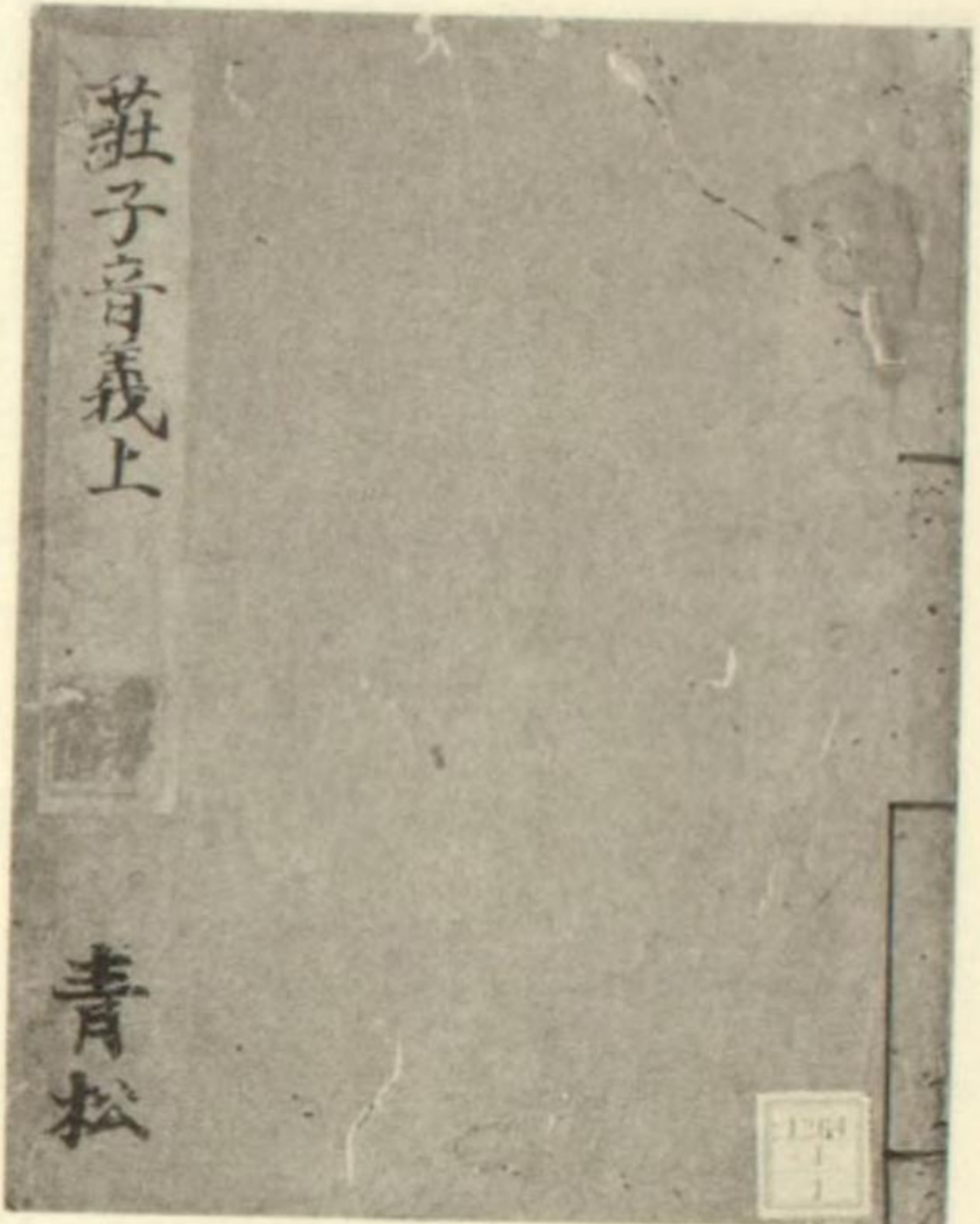
重翻第二別生第三賢聖集傳第四疑偽第五別生疑偽不須抄寫已外三分入藏見録至如法寶集之流淨住子之類還同略抄例入別生自餘高僧傳等詞叅文失體非淳正事雖可尋義無在録又勘古目猶有關本昔海內未平諸處遺落今天下既壹請皆訪取所願仁壽長延法門具足群生有幸方益無窮合成五卷顯之於左

都合二千一百九部 五千五十八卷
單本原來一本 合三百七十部
更無別翻

右第一卷

重翻本是一經或有二重翻者乃至六重翻者合二百七十七部
賢聖集傳 翻賢聖所撰 合四十一部
右第二卷 已前二卷三分合六百八十八部

三 經典釋文莊子音義



ぬものもある。刻工名、杜奇・李信・吳元・葛文・劉總・藍文等。印記、船橋藏書・國賢。

跋文の干支は丁亥、即ち刻工等に勘案して南宋理宗寶慶三年（一二二七）に比定し得べく、ほゞこの頃の刊刻とみられよう。

題簽の下方に國賢の朱陰刻方印あり。國賢は清原氏、慶長頃の大儒で、表紙左下の「靑松」も亦國賢の自署、即ち我が國博士家に傳來の書であつた。

（唐）陸德明撰。疆圉大困獻中和節壽春魏峴跋。

三卷、三冊。袋綴、縦二十六・五糎、横二十・五糎。每半葉有界八行十五字、小雙行二十字。白口、左右雙邊、縦二十・五糎、横十六糎。柱刻、下方に刻工名。耳格あり。卷頭に「經典釋文卷第（墨釘）」

とあつて、次行に「莊子音義上（中・下）」と題す。宋諱の闕畫は慎字（南宋孝宗）に至るが、まゝ闕か

經典釋文卷第

莊子音義上内篇

唐國子博士兼李忠贈齊州刺史吳縣開國男陸德明撰

内篇

内者對外立名說文云篇書也

逍遙

如字亦作搖

遊

如字亦作游逍遙游者篇名義取開放不拘怡適自得

第一

象注夫小大

符音

之場

反直良

事稱

反尺證

各

當

反丁浪

其分

符問反

北冥

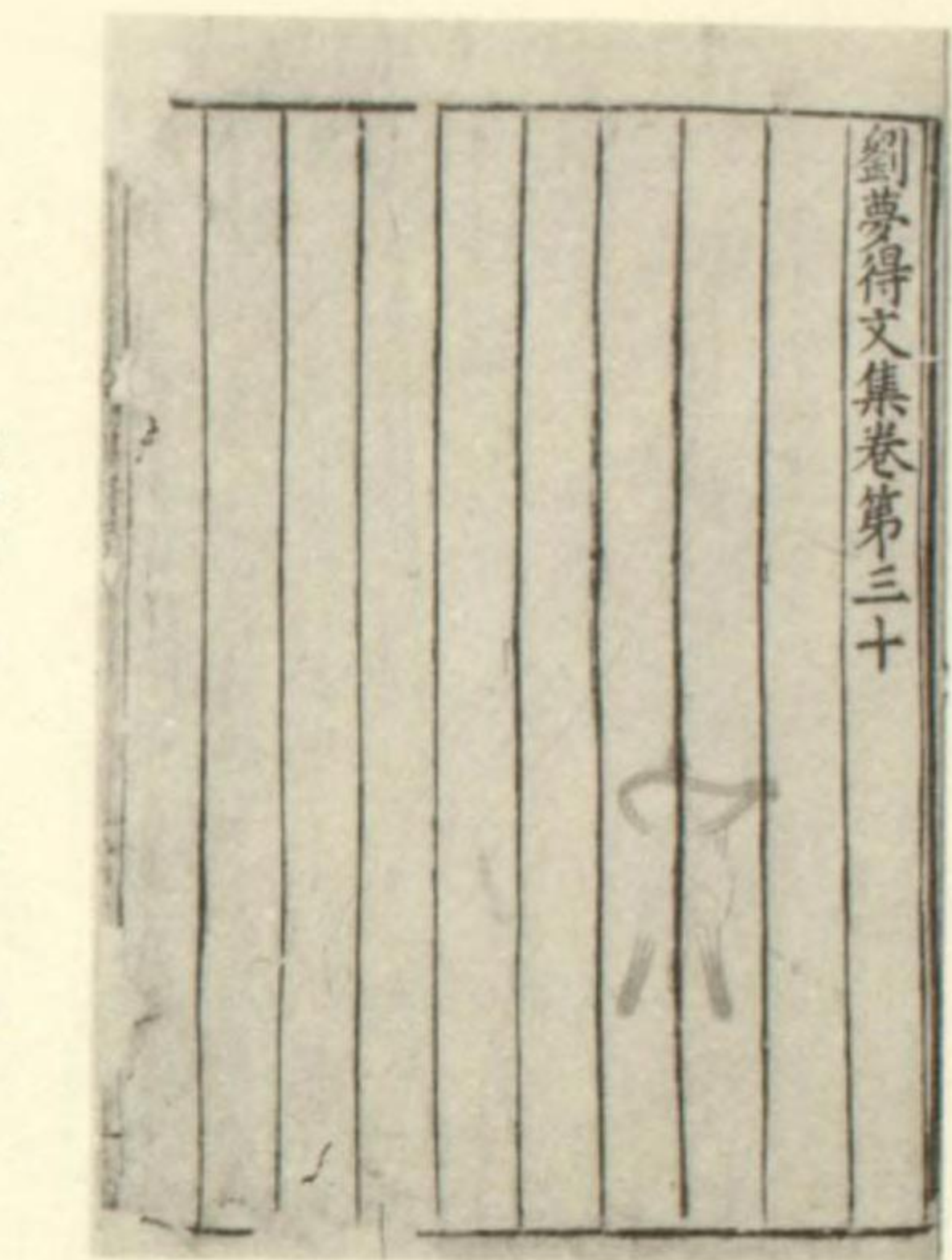
本亦作溟覓經反北冥也嵇康云取其溟

漠無涯也梁簡文帝云窅冥無極故謂之冥東

方朔十洲記云水黑色謂之冥海無風洪波百丈

鯤

三 劉夢得文集



(唐) 劉禹錫撰。三十卷外集十卷、十二冊。袋綴、
 縱二十九糵、横二十一・五糵。每半葉有界十行十八
 字。線黒口、左右雙邊、縱二十五・五糵、横十八・
 五糵。柱刻、下方に刻工名。宋諱の闕畫は構字(南
 宋高宗)に至る。刻工名、王民・王祥・王榮・王道
 ・張千・單隆等。

劉禹錫(大曆七二一會昌二二)、字は夢得。白居易・韓愈・柳宗元に友として善かつた。
 太子賓客を兼ね、その集を別に劉賓客集ともいふ。宋陳振孫書錄解題には四十卷と
 あるが、宋初その十卷を佚し、宋次道が更に遺詩を輯めて外集となした。
 本書はもと京都建仁寺の舊藏にかゝり、同寺開山千光國師榮西が宋よりの舶載と
 傳へる。第八冊卷第三十末に爵形朱印「天山」の印記あり、これを足利義滿ともい
 ふ。明治初年寺外に流れ、京都福井崇蘭館の有に歸したが、大正二年、清董授經に
 よつて複製され、後に董氏の影宋刊によつて四部叢刊第五期に収録された。
 カットは爵形天山朱印記。(國寶)

劉夢得文集卷第三十
 碑 釋門銘記講附
 曹溪第六祖碑 佛衣銘
 唐興寺儼公碑 第一祖新塔記
 袁州廣禪師碑 袁州移鐵像記
 華藏世界圖讚 成都新修福成寺記
 大唐曹溪第六祖大鑿禪師第二碑
 元和十一年某月日詔書追褒曹溪第六祖能
 公謚曰大鑿實廣州牧馬總以疏聞繇是可其
 秦尚道以尊名同歸善善不聞異教一字之褒

劉夢得文集卷第二十九
 刻石紀功垂千萬祀
 之址尊卑穆穆幽顯同理舊松新栢亦象橋梓
 有子稚齒行號執禮歸空萬里洛水之陽循邛
 之間珪組累疊如彼晨馳日中而萎有妻名家
 雕陰白馬暨干邠谷雖榮三鎮不荷百祿綺紈

一四 歐陽文忠公集



宋諱の闕畫は慎字（南宋孝宗）

正之・何念乙・李景山等。

印記、金澤文庫（第一號墨印）

校語、（卷末）熙寧五年秋七月男發等編定紹熙二年三月郡人孫謙益校正。

覆校、慶元元年州縣學職事葛濂字德源王伯芻字駒甫朱岑字山父胡柄字謙甫慶元二年

郡人迪功郎新臨江軍清江縣主簿曾煥字文卿郡人鄉貢進士胡渙字季亨郡人鄉貢進士劉

贊字棠仲郡人羅泌字長源。

歐陽修（景德三・熙寧四年）、字は永叔、吉州廬陵の人、文忠公と諡する。

本書は浙江吉州刻本に出で、刻工に勘案して慶元・嘉泰の交の刊刻か。もと金澤

文庫藏、のち京都古義堂伊藤家に遷った。卷中補寫三十五葉ありて「乙卯八月長堅

補寫」と記す。即ち享保二十年（一七三五）、伊藤蘭嶋の識跋するところである。

又卷末に明和八年伊藤東所の讀書記が見へる。

カットは古義堂傳來書籍にして、書及び刻は蘭嶋。（國寶）

（宋）歐陽修撰。元祐六年六月十五日蘇軾序、六

月巳周必大跋。一百五十三卷附錄五卷、三十八冊。

袋綴、縱二十八櫃、橫十八・三櫃。每半葉有界十行

十六字、注雙行。白口、左右雙邊、縱二十・五櫃、

橫十四・五櫃。柱刻、上部に字數、下方に刻工名。

に至る。刻工名、言人・方正・上官通・葛小七・葛

居士集卷第一 歐陽文忠公集一

古詩三十八首

顏跖

顏回飲瓢水陋巷卧曲肱盜跖獸人肝九州恣橫行回仁而短命跖壽死免兵愚夫仰天呼禍福豈足憑跖身一腐鼠死朽化無形萬世尚遭戮筆誅甚刀刑思其生所得豺犬飽臭腥顏子聖人徒生知自誠明惟其生之樂豈減跖所榮死也至今在光輝一作輝如日星譬如埋金玉不耗精與英

九射格



九射之格其物九為一大侯而寓以八侯
 熊當中虎居上鹿居下雕雉猿居右鴈兔
 魚居左而物各有籌射中其物則視籌所
 在而飲之射者所以為群居之樂也而古

一五 王狀元集百家註分類東坡先生詩



耳格あり。宋諱の闕畫は慎字（南宋孝宗）に至る。卷二至四・九・十二・十三・十五至二十一の内題は「王狀元集諸家注分類東坡先生詩」。

印記、武春文庫・皎亭改藏・寶玲文庫。

刊記、（木記）建安黃及甫刻梓于家塾。
蘇軾（景祐三一建中靖國元）、字は子瞻、東坡居士を號し、詩文を通じて宋代第一等の作者であつた。

本書はよく讀まれたのであらうか、他にも幾種かの宋本がある。掲出本は南宋建安の坊刻本にして、卷第一より二十一迄を存する。書肆黃及甫は他に所見しないが、同じく建安書肆の名家にして、且つ本書別版を上梓した黃善夫に同族であらうか。

（宋）蘇軾撰。 （宋）王十朋注。 西蜀趙公夔堯卿序、

狀元王公十朋龜齡序、 百家註分類東坡先生詩姓氏、

東坡紀年錄。 殘二十一卷、二十三冊。 袋綴、縦二十

七・五糵、横十六・五糵。 每半葉有界十一行十九字、

小雙行二十五字。 線黒口又は白口、左右雙邊、縦十

九糵、横十二・五糵。 柱刻、上部にまゝ字數を記す。

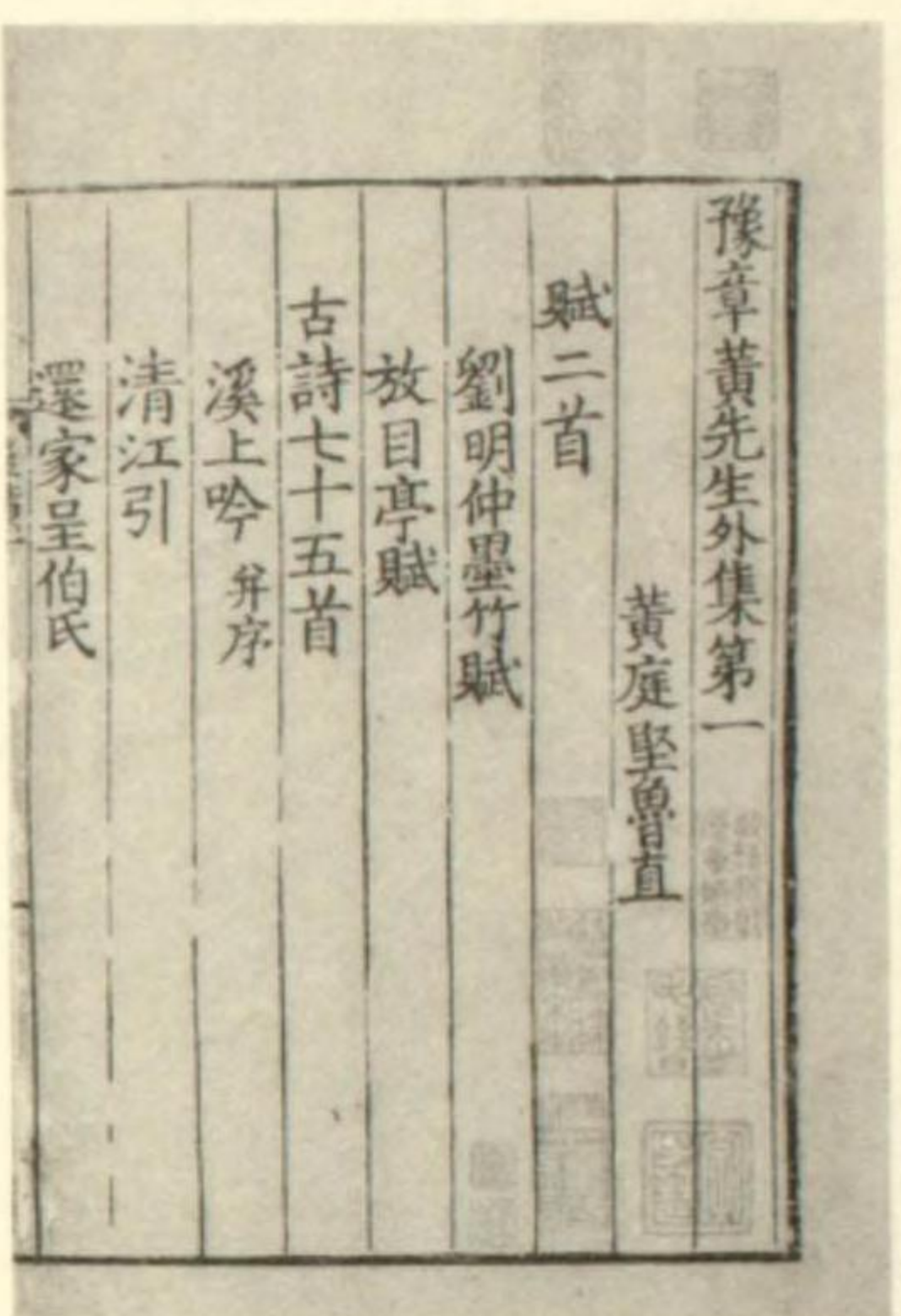
東坡紀年錄 倦翁續行 蘇 編纂
公姓蘇諱軾字子瞻一字和仲眉州眉山縣人也
蘇氏出普陽而蔓延於天下唐神龍初長史味道
斬眉一子眉眉有蘇氏自此始公高大夫祐魯
大父兄大夫序三世且不顯馬三子曰瞻曰頌曰
詢曰字明允父也從隱此自以文學舉進士而復
至都官郎中庶以復官故任大理評事致仕累贈
尚書職方員外郎明允少喜學年二十有七始
發憤讀書六年而大究六經百家之書娶大理寺
丞程文應之女生三子曰景先曰軾曰景先早

百家註分類東坡先生詩姓氏
刻梓于家塾 建安黃及甫

二六 豫章黃先生文集

(宋) 黃庭堅撰。殘十六卷外集六卷、二十二册。

袋綴、縦二十七・五櫃、横十八・五櫃。每半葉有界九行十八字、注雙行二十九字。白口、左右雙邊、縦十九・五櫃、横十三・五櫃。柱刻、上部にまゝ字數を刻み、下方には刻工名を記す。宋諱は玄・紘・敬・驚・桓・脊(南宋孝宗)等を闕く。刻工名、唐用



・唐時・劉僅・陳久・彭立・彭新・施光・金宣等。

印記、虞山毛晋・致樵楊敦厚重威章・汪士鐘藏・汪振勳印・雙鑑樓攷藏宋本等。

黃庭堅(慶曆四一崇寧四年、字は魯直、山谷老人と號した。宋四大家の一)。

掲出本、卷第二至十四・十七至十九、外集卷第一至六を存し、うち、まゝ補版を混へる。圖一はその初刻にして、闕畫よりして、南宋孝宗時の刊か。二・三圖はそれ〴〵別時の補配と考へられ、をの〳〵紙質も亦別様で、更に第三圖の左右兩頁間に於ても版式を異にしてゐるやうである。卷末に黃丕烈の題跋を載せてゐる。(重文)

梅蕊爭先公不眞知公家有似梅人何時各得

自由去相逐揚州作好春

折得寒香不路岐小窻斜日兩三枝羅幃翠幕

深調護已被遊蜂聖得知

次韻中玉水仙花二首

借水開花自一奇水沉爲骨玉爲肌暗香已壓

醪醑倒只比寒梅無好枝

淤泥解作白蓮藕糞壤能開黃玉花可惜國香

天不管隨緣流落小民家時間民間一事如此

吳君送水仙花并二大本

折送南園粟玉花并移香本到寒家何時持上

玉宸殿乞與宮梅定等差

劉邦直送早梅水仙花三首

簸船精覽北風噴霜落千林憔悴人欲問江南

近消息喜君貽我一枝春

探請東皇第一機水邊風日笑橫枝鴛鴦浮弄

嬋娟影白鷺窺魚疑不知

得水能仙天與奇寒香寂寞動冰肌仙風道骨

寄南陽謝外舅

次韻正仲三丈

賦二首

劉明仲墨竹賦

子劉子山川之英骨毛粹清用意風塵之表如
秋高月明游戲翰墨龍蛇起陸嘗其餘巧願作二
竹其一枝葉條達惠風舉之瘦地筍筍夏篁解
衣三河少年稟生勦剛春服楚楚俠游專場王
謝子弟生長見聞文獻不是猶起人群其一折

容朝夕耳承以鄉中歲歉寓居同安同安美俗
里中有佳士又四旁有禪老皆可人居必擇鄉
游必就士今兩得之矣士大夫多報吾生擇交
不妄出極副所望詩政欲如此作其未至者探
恭不幸可惜此君不死可騷孫華老也潘亦
老居憂莫不貧否胡少汲甚有志欲慕古人不
知今何如相望萬里臨書增懷千萬珍重

又 崇寧元年

庭堅頓首每見賢士大夫及林下得意人言師
川言行之美未嘗不歎息也所寄詩正忙時讀
數過辭皆爾雅意皆有所屬規模遠大自東坡
秦少游陳履常之死常恐斯文之將墜不意復
得吾甥真穎波之砥柱也續當寫魏鄭公砥柱
銘奉寄甥能忍夏蚊之嚙膚而從瑩中遊真曠
世之奇事也蒙諭當塗不可作又計誠然似聞
已別有命須近詩漫往數篇老拙豈能如所云
觀一節可以知其侏儒也

Sung Editions

CONTENTS

Preface

- 1 Mao-shih yao-i
- 2 Hou-han-shu
- 3 T'ung-tien
- 4 Shêng-sung ch'ien chia-ming-hsien piao-ch'i han-muo ta-ch'üan
- 5 Po-shih liu-t'ieh-shih-lêi chi
- 6 Po-shih liu-t'ieh-shih-lêi chi
- 7 Hsin-pien tsui-wêng-t'an-lu
- 8 Sou-shên mi-lan
- 9 I-ch'ieh ju-lai-hsin mi-mi ch'üan-shên shê-li pao-k'uang yin t'o-lo-ni ching
- 10 Ming-chou a-yü-wang-shan ju-lai shê-li pao-ta chuan and Hu-ta ling-man p'u-sa chuan
- 11 Chung-ching mu-lu
- 12 Ching-tien shih-wên chuan-tzu yin-i
- 13 Liu mêng-tê wên-chi
- 14 Ou-yang wên-chung-kung chi
- 15 Wang chuang-yüan chi-po chia-chu fên-lei Tung-p'o hsien-shêng shih
- 16 Yü-chang Huang hsien-shêng wên-chi
- 17 Shang-shu chu-su
- 18 A-p'i ta-mo fa-chih lun

Printing in wood-block can be traced as far back as the T'ang Dynasty, 9th century, as was shown by A. Stein, and down through the Five Dynasties Period to the North and South Sung Dynasties, the technique had been culminated to its zenith. These woodblocks were kept long afterwards and often they were used to print later editions, which are generally called also with the proud name of 'Sung edition'.

It is assumed that prior to the Sung Dynasty, books were circulated in MS. and in the form of scroll, but since then, they were always printed and bound either in the form of 'folding', where scrolls were neatly folded and attached with front and back covers, or in the form of the so-called 'butterfly-binding', where every leaf was folded in two and their edges were pasted together on the back to form the modern book style. Thus the Sung Dynasty made a great development in the world of stationary, to give the standards to all the later dynasties of Yüan, Ming and Ch'ing, and therefore even the lacking or pierced leaves of them are eagerly sought and appreciated.

Recently the number of the Chinese printed material in our collection has increased considerably and here we are going to publish the volume of *Sung editions*, in the scope that those of the Yüan and Ming Dynasties to follow it in a near future.

善本寫真集

TENRI CENTRAL LIBRARY PHOTO SERIES

- I 日本近世名家自筆集 (Autographic documents of Edo period in Japanese literature) 昭和 28
- II きりしたん版 (The Jesuit Mission Press in Japan) 昭和 28
- III 古俳書 I (Kohaisho-I: Material of early Haikai) 昭和 29
- IV 西洋古版日本地圖集 (Early printed maps and atlases of Japan made in Western countries) 昭和 29
- V 開館廿五周年記念 稀觀本集 (Collection of old and rare books and manuscripts, the 25th anniversary volume) 昭和 30
- VI 滿文書籍集 (Collection of Manchou books) 絶版
- VII 近代作家原稿集 (Collection of Autographic MSS. of Japanese novelists and poets from Meiji-taishō periods) 昭和 31
- VIII 小泉八雲集 (Lafcadio Hearn) 昭和 31
- IX 日本史籍 (Classics of the History of Japan) 昭和 32
- X 泰西日本記集 (Early Western works on Japan) 昭和 32
- XI お伽草子 (Otogi-zōshi: Nursery tales of Muromachi-period) 昭和 33
- XII 獨逸文人自筆集 (Autographs of German literati) 昭和 33
- XIII 古俳書 II (Kohaisho-II: Material of early Haikai) 昭和 34
- XIV 百科事典 (Encyclopaedias) 昭和 34
- XV 開館卅周年記念 善本聚英 (Collection of old and rare books and manuscripts, the 30th anniversary volume) 昭和 35
- XVI 紀行航海記集 (Collection of Travels and Voyages) 昭和 36
- XVII 永井荷風集 (Nagai Kafū) 昭和 36
- XVIII インキュナビュラ (Incunabula) 昭和 37
- XIX 宋版 (Sung Editions) 昭和 37

昭和三十七年十月十五日 印刷
昭和三十七年十月十八日 發行

編輯者 奈良縣天理市 天理圖書館
京都市中京區新町通竹屋町南
印刷者 株式會社 便利堂
發行者 奈良縣天理市 天理大學出版部
